

新潟県中越地震の被災地・小千谷市の避難所で13日、兵庫県西宮市の社会福祉法人のメンバーらが、関西風おでんの炊き出しをした。

障害者福祉施設を運営する「すばる福祉会」の西定春理事長(57)ら10人が、現地でも活動しているボランティアとともに、県立小千谷高校の避難所を訪れた。

生活が続く新潟の人たちに「神戸の人もこれで元気になったんや」「関東のとはひと味違うよ」と声をかけながら、大鍋3杯分をふるまった。

最高気温は11度前後。あつあつのおでんは大好評で、100人以上が列を作り、40分ほどでなく

おでんの鍋には、大勢の被災者の人たちが列を作った。13日午後4時すぎ、新潟県小千谷市で。

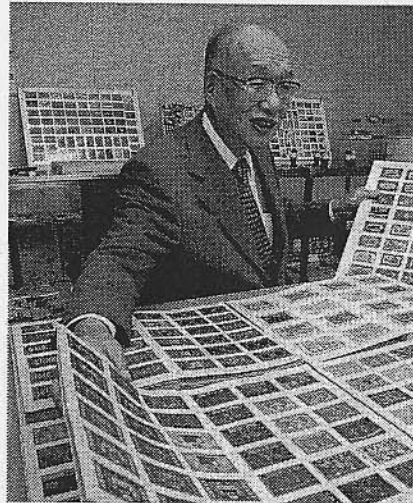
なつた。小千谷市旭町の主婦秋友シズさん(69)は「おでんが、少しだけでもお返ししたい」と話した。

に設立された在日外国人向けの情報配信サービス「グローバルコンテ

震災情報、窓口などの発信している。

危機管理課「レスキュー・ネット」(川区)と連携。地震情報や、紛失時の対応、報などを翻訳、伝言用の掲。各社の連用でき、情報コンテンツ。NPO法人のセンターの存た。英語やス

# マッチ産業の火 消さない



「将来は資料館を設立できれば」と話す日本燐寸工業会相談役の佐藤正光さん。神戸市中

「将来は資料館を設立できれば」と話す日本燐寸工業会相談役の佐藤正光さん。神戸市中

「海の新幹線」岡山で進水式

「海の新幹線」岡山で進水式

## 印刷技術で広告バス うどん販売にも進出

使い捨てライターに押されたマッチ産業が、異業種への進出で生き残りの道を切り開こうとしている。客の細かな注文に応じて多彩なデザインや形の箱を手がけてきた実績から、広告業界や食品産業などで事業拡大を目指す。一方で、マッチ箱の芸術性に注目する業者もある。マッチの火を消さないための懸命の試みだ。

## レトロ箱ラベルで「芸術品」化も

神戸燐寸(兵庫県太子町)はマッチ箱のラベルなど印刷物の編集技術を転用し、広告ラッピング業に進出した。車体を広告で覆う手法を、地元の神姫バスや福井県の京福バスの車体、JR九州の

特急車両に用いたほか、昨夏は大阪・日本橋の7階建て商業ビル全体を巨大な文字やマークで包み込んだ。嵯峨山真史専務(36)は「マッチづくりなどで培った画像製作のノウハウを新しい分野で生かした」と語る。

明和(同県姫路市)は讃岐うどんなど5産地のめんセット販売を始めた。めんを売るだけでなく、顧客の予算や用途にあわせ、独自のデザイン包装と一体にした。

第25回全日本マスターズ陸上競技選手権鹿児島大会(日本マスターズ陸上競技連合、朝日新聞社など主催)で13日、今大会の女性最高齢の南部久子さん(92)は

79年夏の甲子園で延長18回の熱戦を繰り広げ、「昭和の名勝負」とたたえられた星稜(石川)―箕島(和歌山)戦。両校の当時の選手たちが13日、金沢市の石川県立野球場で再び相まみえた。

25年前の死闘再現?

## 夫は故忠平さん



## 砲丸投げ現役

大阪府吹田市(90)94歳

「海の新幹線」岡山で進水式